


令和3年度

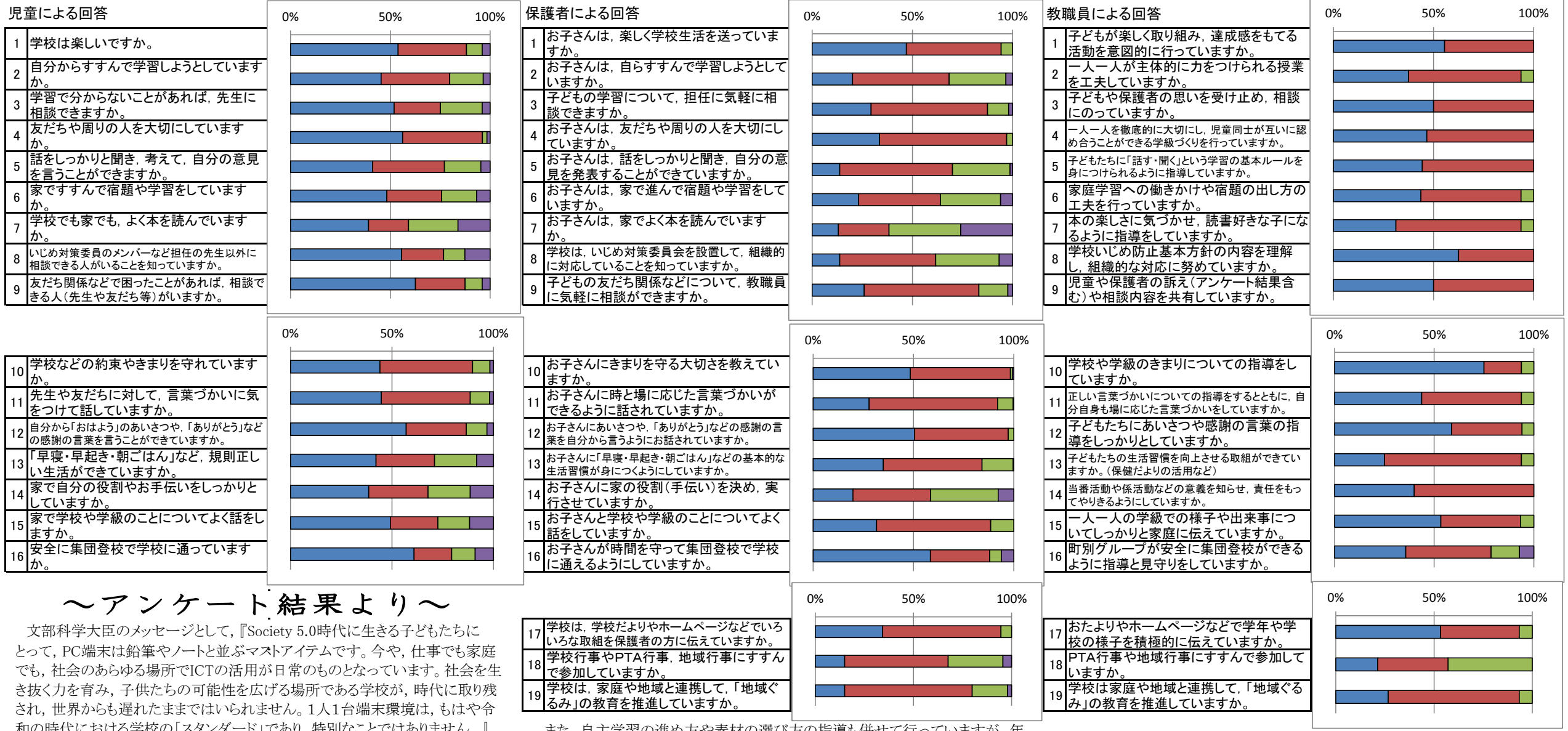
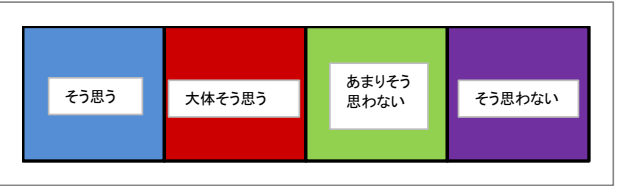


令和3年1月29日
京都市立祥栄小学校
校長 松岡 直子
TEL075-681-1556
<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/syouei-s/>



祥栄だより～後期学校評価～

12月は、学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。集計結果と主な考察を掲載しましたので、ご一読いただきますようお願いいたします。学校評価の結果を本校教育に活かしていきたいと考えております。今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



～アンケート結果より～

文部科学大臣のメッセージとして、『Society 5.0時代に生きる子どもたち』とって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子供たちの可能性を広げる場所である学校が、時代に残され、世界からも遅れたままではいられません。1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。』（以下略）と発表しています。今年度、新型コロナウイルスの影響もあり、本校はICT教育を大幅に進めてきました。コンピュータ室だけでなく教室でも多くの教科で1人1台のタブレットPCを活用した授業を実施しています。また、そのクオリティを上げるべく教職員全員でICTを活用した授業づくりの研鑽を積み重ねています。

項目1「学校は楽しいですか」という設問に対して、90%以上と多くの子どもたちが肯定的な回答でした。これは7月に引き続き12月も高く、とてもうれしい結果でありました。引き続き充実した学校生活が送れるように見守っていきたいと考えます。**項目6「家ですすんで宿題や学習をしていますか」** いう設問に対しては7月に肯定的な回答が約93%から今回は約76%へと大幅に減少しました。これは学習の習慣、学習の意欲、学習の環境、学習の機会など、様々な要因が考えられます。

また、自主学習の進め方や素材の選び方の指導も併せて行っていますが、年度初めだけでなく、定期的に声をかけていくことも必要だと考えます。家庭においては子ども達の学習をうながす声かけとともに、時間のあるときには、学習しているときの様子を横で見たり、終わった後には、学習したものを見て、がんばりをほめたりしてあげてください。学校で学んだことをより定着させる場として、家庭での学習が大変重要になります。

項目12「あいさつや感謝の言葉を言うことができますか」の項目に対して児童の肯定的な回答は約87%であるのに対して、保護者の方々の回答は、97%を越えていて、やや隔たりがみられました。学校で子どもたちの登下校の様子などを見ていると、項目の文言にある＜自ら進んで＞という部分についてはまだ十分ではないと感じています。特に登校時は、声が出にくかったり相手と目が合わ

こちらから子どもたちに積極的にあいさつをするともに、子どもたちがきちんとあいさつできたら認め、ほめていくことで、自ら進んであいさつができる子どもに育っていきます。

項目15「家で学校や学級のことをよく話しているか」という設問に対して、肯定的な回答が保護者の方は約89%に対して、児童は約73%でした。保護者からは話せていると感じていても児童は話せていないと感じている可能性があります。また、児童の肯定的な回答が7月と比べて約11%下落しております。生活が徐々に戻ってきた結果、少しずつ家庭の中で子どもを中心にした会話少なくなりつつあるのかも知れません。こんな時だからこそ、子ども達の声にしっかりと耳を傾け、寄り添い、子ども達の心の居場所をしっかりと確保しておくことが大切です。学校においても子ども

た。7月は休校期間に家庭で学習していたこともあり、やや高く出ていたのではないかと考えます。宿題として子ども達が本気で取り組みたいと感じる課題を設定していきたいと思います。

なかったりとはっきりとした声であいさつができにくいようです。学校に限らず、社会生活においても、人と出会ったら、まずあいさつから始まります。子どもたちにあいさつすることを求めるだけでなく、我々大人が範を示すことが大事です。

達が中心となって自分の考えや意見を表現できる雰囲気づくりと機会を多くもてるように授業をすすめていきます。学校と家庭が協力して、温かい雰囲気の中で、子どもたちを育んでいけるように、これからもよろしくお願いします。